

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 24 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 日 作成

事務事業名		ごみ減量化推進団体活動支援事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	市民部	課長名	松永 公明	
	施策	8	廃棄物の抑制とリサイクルの推進			所属課	環境衛生課	担当者名	中村 慎也	
	基本事業	21	ごみの発生抑制			所属班	環境衛生班	(内線)	1143	
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始		成果優先度評価結果	5
		1	4	2	1	10185			コスト削減優先度評価結果	9.-4
事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度		年度)		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~		年度)
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										
【事業の内容】 補助金としての成果が満たされたと判断し、21年度より補助金を廃止した。併せて、団体の活動支援について職員がかかわる制度とした										
【業務の流れ】 20年度までは、補助金交付申請受付、審査、交付決定通知、支払い事務 21年度より、団体からの要請受付、目的に応じた活動支援										
【主な予算費目】 20年度まで負担金補助及び交付金 21年度なし										

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 昨年度まで、ごみ減量を実施するボランティア団体に補助金(年70,000円1団体)を助成していたが、成果が満たされたとして補助を取りやめた 家庭の生ごみを酪農家に委託して処理を行っていたが、引き受け農家がなくなったため、補助を取りやめた	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ごみ減量化に取り組んでいる団体への活動支援実施。
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ごみ減量化推進団体	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 団体支援件数 → イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 目的に沿って活動できる。	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア ごみ減量化推進団体数 → イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) ごみを出さないようにする	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 目的に沿って活動できた件数 → イ
	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア ごみの減量に取り組んでいる世帯の割合 → イ

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
投入量	事業費	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 0 0 0 0
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	一般財源	千円	90	324	273	1	0	0	0	
	(A) 事業費計	千円	90	324	273	1	0	0	0	
	うち指定経費	千円								
	うち時間外、特殊勤務手当	千円								
	人件費									
正規職員従事人数	人	1	1	2	2	1	1	1		
延べ業務時間	時間	16	16	32	32	10	10	10		
(B)人件費計	千円	64	64	127	127	40	40	40		
トータルコスト(A)+(B)	千円	154	388	400	128	40	40	40		
活動指標	ア 件 イ		1	1	1	1	1	1	1	
対象指標	ア 団体 イ		1	1	1	1	1	1	1	
成果指標	ア 件 イ		26	30	30	30	2	2	2	
上位成果指標	ア % イ		74.1	75.6	77	79.7	80	81	82	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
ボランティアで活動していた団体に対し、活動資金の一部として平成9年度より補助金の交付を開始した
畜産農家生ごみ処理を平成19年度から開始
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
住民のごみの減量化に対する意識が向上し、活動回数が増加している
21年度より活動支援としての補助金を廃止し、団体の運営支援へ切り替えた
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
活動資金の一部としての補助を継続して欲しい旨の要望がある

事務事業名	ごみ減量化推進団体活動支援事業	所属部	市民部	所属課	環境衛生課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 住民に対しリサイクルの意識を高めごみの減量化意識が高まっている。意図の「目的に沿って活動できる」ことで、上位の「ごみを出さないようにする」に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ ごみを減らすことは市の課題であり、市民の意識向上に有効である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 事業の取り組み方針を21年度から変更したので、意図を「目的に沿って活動できる」に変える。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 団体の運営を支援することが目的なので成果の向上余地はないが、要請に応じて支援は毎年必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 市民に対する啓発の機会が失われるので廃止はできない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法は？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似事業がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 予算の計上はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 必要に応じて最小の人数で対応するので、削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ ごみ減量化推進団体を支援することは、予算の削減につながる事業なので、支援団体から負担は求めない。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	①目的妥当性について、事業の取り組み方針を21年度から変更したので、意図を「目的に沿って活動できる」に変える。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 21年度から補助金を廃止したことにより、意図を「目的に沿って活動できる」に変更する。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持 低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持 低下			
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上		○															
	維持 低下																	

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
特になし。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	1	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	4	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)